

さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者：三和地区社会福祉協議会
会長 福田 隆一
編集責任者：広報部長 川上 保
事務局：三和保健福祉センター内
(サンハート内)
電話：0436-37-7100



23年度・安心安全部研修「災害ボランティア活動の実情を学ぶ」



< 第一回 うぐいすサロンに参加を頂いた22名の皆さんたち >

養老地区・川在町会では、二月二十一日、第一回となる共生型サロン（愛称・うぐいすサロン）を開催し、以降、毎月第三水曜開催の取組みをスタートさせました。今回、同会の取りまとめ役である岡さんに、開催に至る経緯をお伺い致しました。



川在町会民生委員兼社協役員
岡 奈美 さん

川在町会では、二〇一九年まで、他の地域や町会と同様に「通いの場」が催されていました。ところが、コロナ感染の拡大に伴い、こうした取組みに休止符が打たれてしまいました。それ以降、地域住民の皆さまが、顔を合わせて語らう機会がなくなってしまうたのです。住民の方々からは、こ



< 移動販売への集まりがきっかけに >

偶然が必然的に 会話の機会生む

でも、それがあつた時を期に、自然発生的に会話の場が持たれるようになったのです。その切っ掛けになったのは、住民サービスの一環として導入された移動

うした取組みが無くなつてしまい、本当に淋しいね。と言った声が聞こえていました。

販売車の取組みです。この移動販売を利用する方々が、買い物に集まると、挨拶から始まるお互いの会話が、ごく自然に交わされるようになっていきました。

そして、それは、立ち話から、いつしか、お茶を飲みながらの会話の場へと広がりをを見せていたのです。そんな時、共生型サロンの制度（市社協・地区社協の助成）に思い当たり、住民の皆さんに制度を紹介したところ、皆さん是非取り組みたいとのことでしたので、会の名称募集や会員登録の展開へと必要なステップを順調に進めることが出来た

のです。会の名称は「うぐいすサロン」お母さん達の発案です。会場は、川在農村協同館。毎月第三水曜日、十二時からの開催です。子供達も来てくれるので、会の幅も広がりが期待できます。

市社協
ホーム
ページ
QRコード



第2弾！

県福祉教育プログラム 高校生から中学生へとつなぐ

本年一月十五日、双葉中学校に於いて、昔遊びを伝承する取組みが開催されました。

これは、県社協・県教育庁の指導指針に基づく福祉ボランティア教育の一環として、若い方々にも地域社会に於ける福祉活動への理解と、参加の機会を広げる目的の下、高校生が中学生の指導役を務め、互いの交流をはかる一日となりました。

今回は、市原高校福祉部の二年生（十四名）が指導役を担い、双葉中の二年生（総勢八十五名）を対象に、昔の遊び五種（コマ・けん玉・羽子板・竹とんぼ・おはじき）の遊び方を指導。地区社協も補

助役を務めました。高校生たちは、昨年九月に地区社協の指導を受け、各種目とも体験済み。今回は教える立場で臨んでくれましたが、その指導振りは、種目Grごとに、開始時の相互紹介や協議後の質問・意見交換など、初対面同志が打ち解けあうテクニクに満ちていました。

こうしたことから、中学生からは、競技についてのみならず、高校生活での関心事（時間割や部活動・コロナ規制の有無など）へも質問が寄せられ、交流目的である、ふれあいの場が芽生える機会となりました。



写真上：指導役を担って頂いた市原高校の皆さん14名



双葉中生徒の皆さん



羽根を打つ軽快な音と飛んでくるスピードは圧巻です！

結構上手な生徒さんもありましたよ！

競技前のGrミーティング

災害備え学ぶ機会に

地区社協・安心安全部

去る十一月二十六日、地区社協・安心安全部では、災害ボランティア制度とその仕組みを学ぶ研修を、三和コミュニティセンターにて開催しました。

や、復旧・復興へ向けた、これまでの対応事例が紹介される中、参加者各位も、地域としての備えの必要性に思いを馳せるひと時となりました。これから、地域の安心・安全を考える機会の提供に努めて参ります。

海上小学校区
小域福祉NW

地域福祉の幅を広げる
買い物ツアー実践に動く



海上小域福祉ネットワーク
伊藤 洋一 会長

海上地区小域福祉ネットワークは、毎月第3火曜日を買い物ツアーの日と定め、2月20日より、高齢者への地域住民サービスを開始しました。
この取り組みを主催する同ネットワーク推進委員会の伊藤会長に、スタートに至る経緯をお伺いしました。

三和地区に於けるこの買い物ツアーの取組みは、光風台ネットワークから始まっています。
地区内(市西・養老・海上・光風台)で組織するネットワーク推進連絡会での情報交換に基づき、条件が整ったところから順次拡大していこうとの方向性が確認されています。
また、この既定路線は二十三年度の地区社協行

動計画にも掲げられ、三和地区全体での取組み課題となっていました。

市西に続き
海上も追従

昨年十月になると、市西地区でもツアーの取組みが始まりました。現在、三町会からの四人の参加者を対象に継続的な住民サービスが提供されていると伺っています。
当海上地区では、ネットワークの町会長・民生委員会、加えて見守り訪問員研修でもこうした取り組みを紹介して参り

ましたが、それぞれの町会では、参加希望者がいないと思われてきました。ところが、月次の訪問員がお年寄りに「こういう住民サービスがあるよ」と紹介したところ、参加を希望される方が、三名ほど出てきたのです。
この結果を受けて、送迎用車両・ドライバーの提供を地域の社会福祉法人グリーンライフネクステに依頼。(光風台はひまわり、市西はあじさい苑)地域の社会福祉法人との連携・協力によって、当海上地区でも運行できるようになりました。

楽しみにしてました
次回も是非宜しくお願いします！

参加者Kさんは、「ずっと楽しみにしていました。皆さんとの会話もでき、お買い物も鎌滝さんが付き添ってくれました。次回も参加しますので是非、宜しくお願いします。」とのことでした。

「私も参加したい」と思われる方は、遠慮なく、お申し出下さい。
制度の詳細は、町会長地区民生委員、または見守り訪問員にご相談を！



2/20当日の女性ドライバー鎌滝さん



いざ、しげのやでのお買い物へ



道路脇のご自宅へドアtoドアで！

『たすけあい三和』
利用者急増・課題も顕在化

三和地区社協・たすけあい支援部の尾関麻生です。私たちの取組んでいる有償サービス『たすけあい三和』の近況をご報告申し上げ、地域にお住いの皆さまのご理解と、更なるご協力を賜りたいと存じます。



この制度は、二〇一五年(廿七年)に、地域の支えあい・たすけあいを目的に発足した制度です。本年度九年目を迎えておりますが、利用登録会員数は二百十四名(年度(二十三年四月・一月現在)の実作業対応件数は、二百九十四件に達します。(対前年一・六倍)利用者の増加は、私たちの励みになる一方、その対応力も限界に近づきつつあります。
具体的には、依頼に対応する支援員側も高齢化が進み、マンパワー不足が顕著になってきています。従って、地域で助け合う支援員の増強が目下の課題となります。こうした課題の解決に向け、地域にお住いの皆さまのご協力を仰ぐと共に、この『たすけあい三和』へ、一人でも多くの皆さまにご参加頂けるよう、メンバー育成に力点を置いて取り組みを企画して参りたいと思っております。皆さまのご協力をお願い致します。

有償制度のあらまし

こんなお手伝いを
しています

活動の内容

- ◇屋外作業
庭木の刈込、庭の草取り、草刈等
- ◇屋内作業
家具の移動、室内整理、電気器具点検、照明器具等の付替え、話相手等
- ◇家事援助
掃除、洗濯、炊事等

◇ お庭の草刈実作業の結果です！



回顧録

第6弾



元陸上自衛隊航空学校

整備・操縦教官 八巻 正時

シリーズ ①

回顧録第六弾では、新巻町会にお住いの八巻正時さんにご登場願ひ、四回に分けてその半生を振り返って頂きます。

私は昭和三十三年六月、北海道富良野の地に生を受けた。
当時の家族は曾祖母を筆頭に、祖父母、両親、子供四人の大家族だった。末っ子だった私は自由奔放(放任?)な幼少期を過ごした。
家族は農業を営んでいたが、現在のような機械化された農業とは全く異なり、農耕馬に頼る耕作法だった。

家族のルーツを辿ると、もとの道民ではなく、明治の頃に東北からの開拓民(屯田兵)として、当初、旭川地方に入植したと聞いている。だが、同地は、取り分け極寒の地であつた事に加え、傾斜地が多く、農耕には不向きな土地柄と判断され、後に富良野へ移り住んだようだ。
小学校へは、一・五

家族ルーツ辿ると
北海道開拓民(屯田兵)？

kmほどを徒歩で通った。同級生は九人しかいない。中学生になり学区が広がっても、私の同級生は十五人。部活動も野球部とバレー部しかなく、男子は野球部女子はバレー部の二択しかなかった。
そんなわけで部活は野球に打ち込んだが、中学後半には人生初の選択が迫ってきた。
私は、卒業後の道として、高校進学を考えていた。
ちようどその頃だったと思う。叔父から聞いた話が、私の進路選択ばかりか、その後の人生をも決することにその叔父は大学卒業

の後、自衛隊に入隊し、退官まで勤め上げた人だった。
叔父の話によると、自衛隊には「少年工科学校」があり、給与を受けながら学ぶことが出来る。」との事だった。
この「学びながら給与が支給される」との言葉が、私の判断に大きく影響した。決して裕福とは言えない家庭事情を考えるならば、これ以上、両親には負担を掛けたくないの思いも働いた。
だが、当時の世情は、似たようなものがあり、目指す工科学校への入試は、高校受験同様の関門だった。
【次号へと続く】

「たすけあい三和」の会員構成

- 1) 利用会員→困っていて人手を借りたい人
(入会金1,000円/1回のみ)
- 2) 支援会員→困っている人に手を貸す人

ご利用の対象となられる方々

- ◇ひとり暮らしの高齢者(65歳以上)
- ◇高齢者のみの世帯◇障害者のみの世帯
- ◇高齢者と障害者のみの世帯

たすけあい三和活動料金	(利用会員)	(支援会員)
	◇ 利用会員の方が作業に支払う料金 * 始めの1時間まで800円/人 * 1時間を超えると30分毎に400円/人を加算 * その他、支援に要する実費が発生する場合の実費	◇ 支援会員の方が作業した時に受け取る手当 * 始めの1時間まで700円/人 * 1時間を超えると30分毎に400円/人を加算

